

日本語学習者の語りにおける自己・他者・世界の表象

【キーワード】 移動、ナラティブ、アイデンティティ、クロノトポス、多文化主義

研究背景

- 世界的規模での人・物・情報の移動が常態化
- 「移動」(Mobility)は現代の社会言語学におけるキーターム(三宅・新井, 2021)
- 問わなければならない問題: 移動が人々のアイデンティティに及ぼす影響

研究目的

移動の経験がアイデンティティの構築に関わるかという問題に対する理解を深めること

研究方法: ナラティブ分析

社会言語学におけるナラティブ

- 社会的・文化的・歴史的存在である語り手が、自身の経験、認識、感情等に関する言語的表象を、聞き手との共同作業を通して「今・ここ」に生成し、自分、他者、世界を意味づける実践的行為(cf. Bamberg, 2010)

従来のナラティブ研究の限界

- 内容 (vs. 実践) 分析への偏重
 - 時間 (vs. 空間) を中心にしたナラティブの概念化
- 内容と実践, 時間と空間を包括的に考慮できる理論的視点の必要性

理論的基盤: クロノトポス

クロノトポス (Chronotope)

- 字義的意味: 時空間
- Bakhtin (1981/1987) に由来する、小説における「時間的關係と空間的關係との本質的な相互関連」を表す概念
- 時空間の「形式=内容上のカテゴリー」としてのクロノトポスが「文学のなかの人間像を決定する」(pp. 8-9)
- 言語人類学者らによって再概念化され (Silverstein, 2005; Agha, 2007), 近年の談話研究に積極的に導入
- クロノトポスは「特定の社会的タイプの人々が住む時間と場所の記号的表象」であり、相互行為を通して間主観的に構築され、参加枠組みによって変容する(Agha, ibid.)。

調査

調査協力者

- 移民第二世代オーストラリア人男性A
- VIC州の農村部で生まれ育ち、18歳にメルボルン移り住む。
- 日本語初中級レベル(研究者の元学生)

調査方法

- 2020年6月から2021年11月までの計16回, Zoomを用いた半構造化インタビュー
- 日本語の学習, 日本での生活, 仕事等の幅広い話題
- 使用言語: 日本語

分析

分析対象

- 国内の場所と移動に関する語り
- 描写とストーリーの両方に注目

分析観点・方法

- クロノトポスの概念に依拠した言語人類学的談話分析
- 語りにおける空間, 時間, 人の表象に注目し, それらの間に一貫して見られる秩序(=クロノトポス)を同定した上で, それに依拠する語りを通して指標される語り手Aのアイデンティティを分析

分析結果

空間・時間・人の表象に見られる様々な二項対立的相互規定

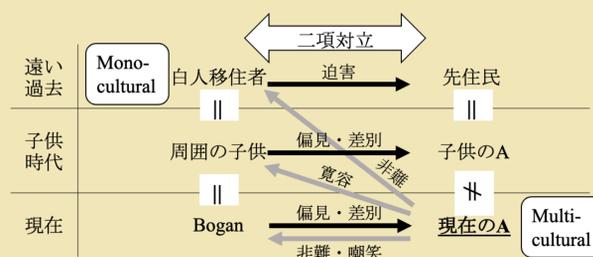
- 故郷 vs. メルボルン
- QLD州, NT州 vs. VIC州
- Aの子供時代 vs. 現在
- AUSの植民地化の過去 vs. 現在
- 消極的な性格の子供時代のA vs. 自由で積極的な現在のA
- 過去のAに対して差別的言動を行う周囲の子供 vs. 寛容な態度を示す現在のA
- 単一文化主義に固執する現代の白人(="Bogan"と呼ばれる人々) vs. 文化的多様性を体現し擁護するA

考察

Aの語りに一貫して見られるクロノトポス: 多文化主義のクロノトポス (Multiculturalist Chronotope)

	Mono-cultural	二項対立	Multi-cultural
空間	田舎		都会
時間	過去		今
人	マジョリティ/マイノリティ		文化的・民族的多様性

多文化主義のクロノトポスにおける人間像の布置



分析結果

- Aにおける移動の経験は、多文化主義のクロノトポスを媒介にして意味づけられている。
- Aのアイデンティティは多文化主義のクロノトポスが提供 (afford) する人間像の布置を基に構築・提示されている。
- Aの場所と移動について語ることは、それ自体、特定のクロノトポスを構築する実践であり、Aが自分自身のアイデンティティを構築・提示する実践である。

【参考文献】

- Agha, Asif (2007). Recombinant selves in mass mediated spacetime. *Language and Communication*, 27 (3), 320-335.
- Bakhtin, Mikhail M. (1981a). Forms of time and of the chronotope in the novel: Notes toward a historical poetics. In Michael Holquist (Ed.), *The dialogic imagination*, pp. 84-258. Austin: University of Texas Press. (北岡誠司訳 (1987). *小説の時空間*. 新時代社.)
- Bamberg, Michael (2010). Who am I? Narration and its contribution to self and identity. *Theory & Psychology*, 21 (1), 1-22.
- Silverstein, Michael (2005) Axes of evals: Token versus type interdiscursivity. *Journal of Linguistic Anthropology*, 15 (1), 6-22.